

令和9年度「防災教育の日」 見直しに向けた対応案

【地区協議会説明資料】

1 課題

- 保護者から、例年のゴールデンウィーク初日の開催に関する意見あり。
 - 心身の負担になると感じている教職員が一定数いる。
 - 4年ごとの4月第4日曜日に市議会議員選挙が実施され、学校で多くの市職員が土日2日間従事する年がある。
- ⇒事業開始から15年。開催時期の見直し、教職員や市職員の負担軽減を図るため、以下のとおり事業を見直す。

2 令和9年度試行実施（案）

変更前

- 日程
令和9年4月24日（第4土曜日）
- 実施内容（例）
 - 1校時 「命」の授業
 - 2校時 「防災啓発講話」
 - 3校時 避難訓練・引取訓練（発災時刻11:00）



変更後

- 日程
令和9年4月17日（第3土曜日）
- 実施内容
 - 1校時 通常授業（非公開）**
 - 2校時 「命」の授業 又は 「防災啓発講話」**
 - 3校時 避難訓練・引取訓練（発災時刻10:30～11:00）**

令和9年度以降も
実施日に関わらず、
実施内容を継続予定

3 今後10年間の実施日変更予定一覧

令和9年度
4/17
（第3土曜日）
市議会議員選挙のため

令和10年度
4/22
（第4土曜日）

令和11年度
4/21
（第3土曜日）
3連休初日のため

令和12年度
4/20
（第3土曜日）
3連休初日のため

令和13年度
4/19
（第3土曜日）
市議会議員選挙のため

令和14年度
4/24
（第4土曜日）

令和15年度
4/23
（第4土曜日）

令和16年度
4/22
（第4土曜日）

令和17年度
4/21
（第3土曜日）
市議会議員選挙のため

令和18年度
4/26
（第4土曜日）

4 ねらい

「東日本大震災の教訓を忘れない」

- ◎「命の尊さ」について学ぶ ◎「自らの命は自らが守る」という意識を高め、児童生徒自身が自助、共助のために必要な知識や行動様式を身に付ける ◎「地域と一体となった震災対応システム」を構築する

小学校第1学年 自分の身を守る方法や学校の避難所を知る ⇒ 中学校第3学年 避難所開設を体験

5 「命」の授業の授業例

○原則、各校で決定

○小1・中3は、教員・市職員合同で以下の内容を検討

■小学校第1学年（クラスごとに実施）

教員：導入→避難所紹介ビデオ視聴→

市職員：防災備蓄倉庫等の見学・避難所体験→

教員：まとめ

■中学校第3学年（クラスごとに避難所開設体験）

①防災備蓄倉庫・避難所体験準備

②マンホールトイレ ③応急給水体験

④避難所図上訓練

6 防災啓発講話のメニュー

○調布消防署：輪番校5校、防災教育VR「B－VR」、防災動画

○調布警察署：輪番校1校

○京浜河川事務所：防災講話1校、防災動画

○東京水道株式会社：応急給水体験訓練2校

○その他講師（学校が招聘）

7 地区協議会への説明スケジュール（予定）

R8/8/21 → R8/11/13

地区協議会連絡会

R9/2/5

地区協議会連絡会の前に
防災教育の日説明会

R9/4/13

防災教育の日説明会
（予定）

R9/4/17

防災教育の日

全体のスケジュール（案）

時間	(1)-1学校教育活動(小学校例)	時間	(1)-2学校教育活動(中学校例)	(2) 市統一テーマ訓練「避難所開設訓練」	場所	地域の方々
8:45	1校時 通常授業(非公開)	8:45	1校時 通常授業(非公開)			学校教育活動の公開を行っておりますので、御都合があればご覧ください
9:15		9:15				
9:30		9:35				
9:45	2校時 「防災啓発講話」OR 「命」の授業 (保護者・地域へ公開)	9:45	2校時 「防災啓発講話」OR 「命」の授業 (保護者・地域へ公開) ※中学第3学年は避難所開設訓練	9:45 市職員・地域の方集合 ・一日の流れの確認	校舎 外回り ・ 体育館	市職員と協働で確認、作業
10:30		10:35		避難所開設訓練 ・避難スペース設置、避難所受付準備 ・避難所体験の準備 等 ・小学第1学年への防災倉庫見学対応 ・中学第3学年との連携		
10:45		10:45				
11:00		11:00				
11:20		11:20		避難所体験 ・避難所受付、備蓄品、避難スペースなどの確認・体験 ※避難所体験の内容は調整中		
				意見交換(訓練振返り、課題抽出等) 片付け・終了報告		
13:15		13:15		訓練終了		

防災教育の日（春）

地域住民も含めた誰もが、学校避難所開設をできるようにするための機会。
関係者が一同に会す機会。

地区協議会避難訓練（秋）

地区協議会が主導で実施。地域の独自性を生かすことができる。
児童生徒、市職員も参加。

地域

避難所開設・運営
地域資源の調整

災害発生時

教職員

児童生徒の安全確保
教育活動の再開
避難所の運営協力
（学校施設・物品提供等の後方支援）

市職員

避難所開設（運営）
関係機関との各種調整
所属部署の運営

訓練参加職員からの意見等について



地域の方と一緒にできてよい機会だった。



何か起きたとき人数が必要。地域のみなさまがいないと成り立たないと感じた。



長く従事している職員が少なく不慣れな状況もあったが、地域のサポートによりスムーズに訓練が実施された。地域の方の防災対策に関する理解もあり、職員との関係性も良好な中で気持ちよく協働の取組が実施できた。



初動要員が駆けつけて職員だけで開設の判断をするのではなく、住民の方々の視点も交えて一緒に相談して判断していけたらよい。



職員・学校職員・地域の方で、避難所開設の流れ・課題を確認できた。発災時にスムーズに避難所が開設できるよう、継続して訓練を行っていくべき。



地域・学校教職員・市職員がそれぞれの立場で参加し、災害時における対応について考える良い機会となっている。地域と市職員は朝から避難所開設訓練を行う中で立場と課題を共有しながら行っているが、学校教職員は授業や引き取り訓練後の参加となっていて、一体感が薄い。避難所体験の終了時に、全員が集まって、校長・地区協役員・避難所リーダーが総括的にコメントし、それぞれの課題を共有しているが、時程に含まれていない。次回以降は時程に含んで必須項目としてはどうか。



訓練をはじめ避難所の在り方については、市が主動してやるのではなく、地域の意見を聴いて、一緒に考えて決めていくことが必要ではないか。



有事の際は中学生自身が避難所として使用することになるので、中学生が避難所設営を手伝うなど、体験するのも一つの手ではないか。